

学術研究講演会

「これから研究を始める仙台一高生のために」

東北大学大学院生命科学研究科 酒井 聡樹先生

令和 8 年 4 月 30 日（水）6，7 校時に 5 階多目的教室で 1 学年（81 回生）を対象に学術研究講演会が実施されました。東北大学大学院生命科学研究科 酒井聡樹先生が、これから課題研究を進める上で必要となる考え方について、「研究とは何か」「意義のある問題に取り組もう」「回答できる問題に取り組もう」「説得力のある主張とは」「研究の進め方」の 5 つのテーマに分けて講演をしました。



～講演内容～

1. 研究とは何か：研究とは**学術的・社会的問題**に取り組み，他者や社会に**貢献する**ことである
2. 意義のある問題に取り組もう：他者に研究を伝え**興味や関心を持ってもらう**ことが大切
3. 回答できる問題に取り組もう：「こうすれば解決できる」と**見通せる**問題に取り組む
4. 説得力のある主張とは：データ，事実を基に結論を出し，誤っていないか**検討する**
5. 研究の進め方：**仮説**，**研究計画**を立て実験を行い，**結論**をまとめる

～講演会参加者の感想～

以下、講演会に参加した生徒の感想を一部紹介します。

- 自分が学術研究でやろうとしていたことは、本当にただの「興味に関する調査」でしかなかったのだと気づかされた。しかし同時に、「じゃあそこから社会に役立つ課題解決に達することができるようにするためにはどうすればよいのか？」ということを考えるきっかけとなった。
- 研究テーマは自分が興味のあるものであれば何でも良いと思っていたが、人類にとって未解決であり、多くの人が解決を望むものがふさわしいと知った。研究は成果を出して終了ではなく、その成果を他者に伝えるところまでが研究だと学んだ。また、問題に取り組む理由は興味を持ったからだけでは他者の興味にはできないため、その問題の解決が上位の問題の解決に繋がることや、その問題の解決自体に意義があることをふまえて理由を説明することが重要だと分かった。当初の問題に固執せず、取り組む問題を変えることも大切だと気づいた。
- 研究は問題を完全解決するものだと思っていたが、答えが全く出なくても良いと聞いて驚いた。その代わりに、研究の成果を他者に伝えて問題解決に貢献することが大切だということに納得した。そして、先日研究テーマを班で決めたときには、この講演で大切だと聞いたことを何も意識していなかったことに気づいた。次の学術研究では、班のメンバーとしっかり話し合っって他者に興味を持ってもらえる研究をしたいと思った。
- 研究に取り組むに当たって、問題に取り組むのだからその問題を解決し、答えを出さなければならないというイメージを持っていた。しかし、本日の講演で、必ず完全解決でなければいけないというわけではなく、少しでもその問題の解決に貢献できればよいということに気づいた。これから始まる研究活動では、解決が難しそうな問題にも積極的に取り組んでいきたい。



編集後記

今回の講演会によって課題研究への理解が深まったことで、みんなが探究活動に対する興味が高まったように感じました。今回得られた知識は、どれも非常に有用なものばかりであり、私たちが研究活動を進めるうえで大きな助けになると感じました。この講演会は、課題研究についてより深く考える貴重な機会となりました。